

## 第2回役員会

# 「組織・業務改善計画書（案）」の審議深まる

全史料協第2回役員会は、平成19年9月19日に東京都立産業貿易センター（浜松町）で開催された。

当日の出席は、荻布会長以下役員21名（欠席2名）とオブザーバー各10名の計31名であった。



今回の役員会は、連絡事項（役員等の一部変更）、協議（3本）、報告（5本）、その他（6本）と多くの議題が準備されていたが、時間の大半は、「組織・業務改善計画書（案）」の協議に費やされた。一議題の協議だけで、終了予定時間を大幅に超過したが、それだけ

この案件が、全史料協の根幹に関わる重要案件であるという裏返しでもあった。筆者も、委員会の事務局を仰せつかった立場から役員会に参加しているわけだが、確かに、全史料協の現状や将来の方向性に関しては、問題点や課題が山積していることに、あらためて気づかされる。

ともあれ、限られた時間での審議ではあったが、担当事務局の総務委員会（広島県）はもとより、会長事務局、役員関係各位からも活発な意見が出され、意義ある役員会となったのではないかと感じた。

第2回役員会の審議を受けて、再度修正された「組織・業務改善計画書（案）」は、すでに会員各位のお手元に届いていることと思う。来る11月20日の総会までに、計画書（案）の精読と検討をしていただきたいと切に願う。また、今号でも、特集のひとつとして、「組織・業務改善計画書（案）」を紹介することにした。「組織・業務改善」問題について、検討するに至った背景や取り組みの経過、最終案について総務委員会から報告をいただ

く。これまた、計画書（案）とともに、御一読いただければ幸いである。

さて、第2回役員会では、「組織・業務改善計画書（案）」の協議に入る前に、水戸市で開催される全国大会に関する協議が行われた。中心は、会長事務局から提案される総会の「次第」（セレモニーや議事の内容・進行等）やステージの配席に至るまでの案件であった。説明を受けるだけでも、これは考えを新たにしなければ、申し訳ない、と感じた。筆者はこれまでに5度全国大会に参加したが、正直なところ、総会は“聞くだけ”という消極的な姿勢に終始していたからだ。

同会報が発行されるまでには、33回を数える全国大会（茨城大会）も滞りなく開催され

ていることであろう。いうまでもなく、全国大会は、全史料協のイベントの中でも最大のものである。長年、アーカイブズの世界にいる人にとっては、全国の仲間と交流する絶好の機会でもあり、初めて参加する人は、その熱気に驚くかもしれない。講師を務める人や報告する人、司会・記録を務める人等々、参加する人にとっての目的・役割もまた様々であろう。

前述したとおり、今次の総会では全史料協の将来に関わる大事な議題を含んでいる。新しい全史料協の第一歩に向けての「大同団結」ができるかどうか、すべては参加者の双肩にかかっている。

〔編集・出版委員会 伊藤〕